

4つの節の各項にそって内容を整理し、[問い]を確認し、必要があれば〈コメント〉を付した。なお、合評会当日に出された意見も加えた。

第Ⅲ部 現代世界と東アジア(第Ⅲ部概要：韓国・金聖浦)

第Ⅲ部第1章 戦後国際関係の変化と民衆

第1節 8月15日は何の日か—戦争終結の意味(日本・渡辺洋介)

コラム:東アジアの伝統的な祝日(中国・柴怡贇)

第2節 東アジア各国の外交関係の回復は、なぜ未完成なのか(韓国・李信澈)

コラム:平和記念館(中国・徐志民)

第3節 冷戦終結後、米軍基地はなぜ今も残っているのか(中国・趙慶雲)

第4節 東アジアの人々は平和のためにどのような努力をしたのか(韓国・李慶勲)

コラム：在日コリアンの「国籍」(日本・渡辺洋介)

第1節 8月15日は何の日か—戦争終結の意味

第1項 日本の敗戦の日、東アジア各国の人びとは何を思ったのか

(内容)

1945年8月15日に日本ではラジオで天皇が日本の降伏を告げた。

→中国の勝利、日本の敗戦、朝鮮と台湾が植民地支配から解放された。

\*「日本の敗戦の日の捉え方は東アジア各国で異なるとともに、同じ国・地域の中でも人によって受けとめ方は異なります。」(184頁)

8月15日 資料①写真

資料②手記

日本 うなだれてラジオを聞く人々 10歳の香川県首藤隆司

大人は戦争は負けた母は「よかった」と

朝鮮 喜び、万歳する人々

10歳の柳宗鎬

衝撃。本名の名乗りあい

中国 喜ぶ人々

遊撃隊員の李念林

日本が降伏した

[問い]・この時代にあなたが生きていたら、日本敗戦をどのように受けとめたと思うか。

・あなたが他の国の国民として生まれていたら、その日に何を感じたでしょうか。

〈コメント〉

①写真に説明文が必要。写真と手記は対応しているようだが、中国もそうなのか不明。

②3人を選んだ理由を知りたい。いろいろな受けとめ方があると言っているのだから。

《合評会での意見》

①写真について、日本のものは『毎日新聞』で東京・四谷、朝鮮のものは実は翌日8月16日のソウル・西大門刑務所前の写真、との指摘があった。

②天皇のラジオ放送は朝鮮や台湾でも放送された、との指摘があった。

第2項 戦争は本当に8月15日に終わったのか

[問い]一般に戦争は1945年8月15日に終わったと信じられているが本当にそうだろうか。

資料③のように、各地に展開していた日本軍が降伏文書に調印した日は各地で異なる。

8/14 ポツダム宣言受諾, 8/15, 8/20, 9/2 ミズリー号で降伏文書調印, 9/7, 9/9, 9/12, 10/25

[問い]それぞれの国で敗戦を記念する意味づけは異なります。なぜでしょう。

8/15 日本：終戦記念日、南北朝鮮：南・光復節、北・祖国解放記念日、

9/3 中国：抗日戦争勝利記念日 台湾：1955年までは戦勝記念日→軍人節に変更

10/25 台湾：光復節

〈コメント〉①日本が1963年以降に8/15を「終戦記念日」としていることの意味を対比的に理解できる。

②戦争終結を中心に考えると朝鮮国内や中国国内の対立、冷戦が見えにくい。

### 第3項 なぜ戦後処理は今も終わっていないのか

[問い] 東京池上本門寺のシンガポール殉難者慰霊碑の146人BC級戦犯の中に日本人以外の名前があるのはなぜか。

[問い] 戦犯裁判はどのように行なわれたのだろうか。

→東京裁判に多くの問題点があることを指摘する記述が続く。

その中で植民地出身の軍人・軍属が「日本人」として裁かれながら、1952年サンフランシスコ平和条約・日本独立のなかで日本国籍を一方向的に剝奪されて謝罪も補償もいまだにない→韓国・朝鮮人戦犯問題

[問い] 韓国・朝鮮人戦犯問題はなぜ終わっていないのでしょうか。日本でこの問題が知られていないかからか。韓国が支援しないからか。

〈コメント〉解決すべき「戦後処理」の中で韓国・朝鮮人戦犯問題が選ばれたのはなぜか。

《合評会での意見》第3項と第4項は入れ替えるとよいのではないか。

### 第4項 なぜ故郷に帰れた人と帰れなかった人がいたのか

朴・堀江夫妻とパク・シン夫妻との帰国をめぐる経緯を詳細にたどる記述が続く。

朴・堀江夫妻は、1956年日ソ国交回復後によく日本に帰国。

パク・シン夫妻は、1990年韓国ソ連国交樹立後に協議が進み、2000年に韓国に帰国。

[問い] 在樺コリアンが何十年も帰国できなかったのは、日本、韓国、ソ連がとったどの政策が主な原因でしょうか。考えてみましょう。

〈コメント〉①冷戦体制の影響下に日本、韓国、ソ連の政府がとった政策(国交回復他)により、在樺コリアン帰国問題解決が大きく左右されたことがわかる。

②在日コリアン問題への言及がこの節にはない。

③アジア各地からの日本人の引揚げで日本政府の政策は問題がなかったのか。

コラム:東アジアの伝統的な祝日

## 第2節 東アジア各国の外交関係の回復は、なぜ未完成なのか

### 第1項 外交関係がないということはどのような状態なのか

外交関係がないということは、「お互いを国家として認めず、交流も行われ」ないことである。

[問い] 東アジア各国が関係を正常化していく過程が遅れた理由は何だったのか。

### 第2項 なぜ韓国と日本の国交樹立に反対したのか

[問い] なぜ韓国と日本の国交樹立に反対したのか

資料③韓国の大学生による日韓会談反対デモ(1964年3月28日ソウル)を見て考える。

- ・日韓会談で日本政府は植民地支配に対する謝罪と賠償をする法的な責任はないとの態をとった。これに韓国は反発した。
- ・日本政府と韓国政府は1965年6月22日に日韓基本条約と日韓請求権協定を締結した。しかしいくつかの重要問題に触れず、かつ個人請求権問題は扱われないなど不十分なものであった。
- ・日韓国交正常化を急いだ背景にはアメリカの影響力があつた。(194~195頁に詳述)

《合評会での意見》資料③のデモの写真の横断幕の翻訳「誰のための会議なのか」を入れた方がよい。

### 第3項 冷戦によって隔てられた各国の関係はどのようにして回復し始めたのか

資料⑤1971年訪中したアメリカ卓球選手団「ピンポン外交」—「デタント」

米中：1972年ニクソン訪中

1979年米中国交正常化

日中：1972年日中共同声明発表し、国交を結ぶ

1978年日中平和友好条約締結

〈コメント〉①1969年ニクソン・ドクトリン後の米中接近の中で、南北関係の一時的和解の雰囲気生まれるが、関係正常化には至らず。第4節第3項で記述あり。

②この本では触れることは難しいのは分かるが、1972年日中国交正常化で日本は台湾と断交した後も関係はあり、1992年韓中国交正常化で韓国は台湾と断交した後も関係はある。

《合評会での意見》中朝の外交関係も言及してほしい。

### 第4項 冷戦が終わっても国交を正常化できない国々はどこか

東アジア各国の外交関係の紆余曲折は、いかに歴史問題とイデオロギー問題の解決が難しいものかをよく示している。北朝鮮とアメリカ、北朝鮮と日本、韓国と北朝鮮には解決すべき問題がまだ多くある。

2000年平壤で南北首脳会談、

2002年平壤で小泉総理が金正日国防委員長が会談し4項目に合意。←資料⑦

しかし拉致問題、核問題、日本の植民地支配責任問題で対話が進まず。

2019年板門店で文在寅、金正恩、トランプが会う。

[問い]「国家間の対話によって解決できない問題を、市民社会において解決できる方法はないでしょうか。」(198頁)

コラム:平和記念館

### 第3節 冷戦終結後、米軍基地はなぜ今も残っているのか

#### 第1項 アメリカ軍はいつ東アジアに駐留し始めたのか

1898年アメリカはスペインとの戦争に勝利して、フィリピンを占有

1903年アメリカはフィリピンのクラークに空軍基地建設

1907年アメリカはフィリピンのスービック湾に海軍基地建設

アジア・太平洋戦争終結後、アメリカは東アジアに軍事駐留拡大

「東アジアでは朝鮮戦争、ベトナム戦争という二つの大規模な熱戦が戦われ、それが東アジア独特の冷戦のかたちを」作った。(202頁)

「日本や韓国の国民をはじめ、「自由陣営」に属する地域の住民は、アメリカ軍を「保護者」と考えるように」なった。(202頁)

1950年6月25日、朝鮮戦争勃発、アメリカ軍派遣

1951年アメリカと日本は、安全保障条約締結、沖縄占領継続

1953年米韓相互防衛条約締結

1954年米華相互防衛条約締結←1978年12月16日、米中国交正常化

1979年5月3日米軍は台湾から撤退

そして2025年現在でも、日本と韓国には米軍が駐留している。

〈コメント〉上記「日本や韓国の国民をはじめ、「自由陣営」に属する地域の住民は、アメリカ軍を「保護者」と考えるようになりました。」という指摘は適切か。

第2項 なぜアメリカは依然として東アジアに多くの軍事基地を保持しているのか  
ソ連が崩壊し冷戦終結後、アメリカの海外軍事基地は減少するが、東アジアにはなお重点的に基地が存在する。

日本：横須賀、佐世保、沖縄(31ヶ所で在日米軍基地の70.3%)ほか

韓国：今なお28,000人維持

[問い]冷戦終結後になぜアメリカは東アジアで軍事力で影響力を行使しようとしているのか。←中国への対抗とのこと

[問い]同時に、米軍が駐留する地域の政府はなぜ財政負担の大きい米軍駐留を許しているのか。←米中対立に対応するため。特に日韓は北の核の脅威に対抗するため。

それでも、日韓中は政治的に衝突しているが、経済的にも文化的にも互に無視できない隣国との理解。(204頁)

〈コメント〉①アメリカと台湾の関係への言及が必要なのでは。

②2025年11月のアメリカの「国家安全保障戦略」で「西半球」重視も中国への対抗策。東アジアでの米中対立は継続。同盟国への負担増要求。

第3項 アメリカ軍基地は現地住民の生活にどのような影響を与えているのか

沖縄の米軍基地：米兵による犯罪、騒音、環境汚染ほか

韓国の米軍基地：米軍の犯罪、駐留費分担、環境汚染ほか

\*多くの韓国人は韓国の安全保障のために米軍駐留の継続を必要と考えているが、米軍による多くの問題には批判的。(205頁)

アメリカ軍は果たして地域外の調整役か、この地域の軍事的葛藤を深め、住民に不便を強いる存在なのかの議論も重要だが、それを超えて、東アジアの政府と市民が国際社会と積極的にコミュニケーションし、相互信頼を増進することで、この地域の平和と安全を守っていく道を探ることがより意味があることではないか。(205頁)

〈コメント〉上記の相互信頼の増進による地域の平和と安全の道を求めることは理解できるし、軍事的より外交的努力での平和的解決の重要性も理解できるが、現実の米中対立の進行に困難を感じる。

第4節 東アジアの人々は平和のためにどのような努力をしたのか

〈コメント〉東アジア各国の動きを平和運動としてとらえ直すことの意義を感じつつも難しさも感じる。

第1項 平和運動はどのように始まったのか

1950年「ストックホルム・アピール」

1953年朝鮮戦争終結(実際は「休戦」)

1954年6月中国とインド、平和五原則

1954年9月SEATO(東南アジア条約機構)に中国は危機感、冷戦の深刻化

1955年4月アジア・アフリカ会議(バンドン会議)「非同盟運動」

〈コメント〉①この本では、バンドン会議で記述は終わる。実際は中・印の平和五原則や非同盟運動は長続きしないのでは。

②中国は、東アジアの冷戦の深刻化に対抗して平和運動、平和共存、非同盟運動を進めるが、長続きはしないのでは。

中印関係史、中国のチベット侵攻/解放の歴史、中越関係史、中朝関係史、中ソ関係史、

1950年中ソ友好同盟相互援助条約、1956年スターリン批判、しだいに中ソ対立、

1958年中国「大躍進」運動そして  
中国の核開発：ソ連からの技術供与。1964年原爆実験成功、1967年水爆  
実験成功、

## 第2項 ゴジラが目覚めた理由は何だったのか

1954年11月3日に封切られた映画「ゴジラ」では水爆実験でゴジラが目覚めたという設定。

[問い]映画「ゴジラ」がヒットした理由は何だったのか

1954年3月1日ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験により、第五福竜丸乗組員が被爆。

5月杉並区から原水爆禁止運動が始まる。→3,200万署名

1955年7月9日「ラッセル・アインシュタイン宣言」原水爆実験と核兵器使用禁止主張

[コメント]原水爆実験核兵器使用禁止の運動は中国や韓国でどうであったのか記述がない。

## 第3項 南北朝鮮の平和は世界平和にどうつながるのか

ここでは、南北朝鮮の対立と対話の歴史を平和の観点からとらえている。

1968年1月21日北朝鮮特殊部隊、朴正熙大統領殺害目的でソウル侵入

1月23日北朝鮮元山沖でアメリカのプエブロ号が北朝鮮に拿捕される

朴大統領は深刻な危機的状況として安保政策強化

1972年10月維新憲法→独裁体制

これに対抗して平和運動、民主化運動が進行

1976年3月1日「3・1民主救国宣言」民族統一、平和定着を求める

1987年6月民主抗争、民主化進展

1989年7月平壤の世界青年学生祝典に韓国大学生参加 〈コメント〉大学生は林秀卿

1991年8月国連に南北同時加盟、

12月南北合意書

2017年ロウソクデモで、朴槿恵大統領退陣

2018年4月24日板門店で文在寅大統領と金正恩国務委員長が会談、南北の平和をめざす

<コメント> ①紙幅制限で無理とは言え、以下の歴史を追加するとわかりやすい。

1969年7月ニクソン・ドクトリン

1971年7月米中接近 →1972年2月21日ニクソン、訪中

1971年4月27日大統領選挙、野党新民党金大中が90万票差、金大中は平  
和的統一主張

1971年8月離散家族探し

1972年7月4日「南北共同声明」南北対話ムード

10月朴正熙、維新憲法で独裁体制強化

②本書編集以降の南北関係や東アジアを取り巻く国際関係は大きく変化して  
いる。

《合評会での意見》朝鮮戦争休戦後に国際婦人連盟が北朝鮮を訪問しているのでは、との  
指摘があった。

コラム：在日コリアンの「国籍」

《合評会での意見》コラムの文章中には「韓国籍」と韓国籍のふたつの表記が混在してい  
る、との指摘があった。

[以上]